



EAPEA ニュースレター

2012年1月16日
第3号

発行元：NPO 法人東アジア政経アカデミー

発行元連絡先：〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-64-5 グレイスビル 402号 電話&FAX：03-5944-1779

URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~eapea/> e-mail：eapea@diary.ocn.ne.jp

この号の内容

- 1 冒頭挨拶
■2012年を迎えるにあたって
東アジア政経アカデミーの目的
 - 2 研究・調査活動報告
■木浦圏海洋観光発展国際セミナー参加
(永野慎一郎)
■木浦市訪問団板橋区訪問
 - 3 活動報告
■木浦市東京訪問団歓迎会開催
■木浦市長一行をお迎して
(松浦勉)
■木浦と俳句 (貫隆夫)
 - 4 会員からの便り
■今年は大変な年！
(佐々木憲文)
■一つの時代の終焉
(薄葉威士)
- お知らせ
■木浦訪問団募集
編集後記

2012年を迎えるにあたって

東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

昨年は、東日本大震災という予期しなかったことが発生し、震災地における復旧・復興が現在も進行中です。災害地の被災者たちに対して国内だけでなく、海外からも数々の支援の手が届きました。被災地の人々が一日も早く正常な経済活動ができることを望んでやみません。

NPO 法人東アジア政経アカデミーも東アジア地域の平和と安定並びに共生共栄に寄与すべく地味ながら活動してまいりました。とりあえず韓国木浦地方との交流を進めております。

2月10日の日韓合作映画「愛の黙示録」(板橋社会福祉協議会主催)の上映会は盛況でした。10月25日～26日には木浦市長・市議会議長など4名の議員を含めた14名の東京訪問団が来日し、板橋区長を表敬訪問しました。両市の首脳陣が交流を推進することに合意しました。本アカデミーが架橋役として少しでも貢献できれば幸甚に存じます。

新年早々の企画として、3月に「日韓福祉セミナーin木浦」を準備しております。板橋区と木浦市の福祉団体および福祉専門家による交流の一環としてセミナーを開催し、情報や経営ノウハウなどを共有し、学び合える機会にしたいと考えております。これは民間レベルでの交流です。まず共通の関心事について相互に理解し合い、交流を深めていくことを望んでおります。

行政機関をはじめ、大学、産業界、社会福祉団体、市民団体など様々なレベルでの交流が進展することを期待しております。板橋区と木浦市との間で幅広い分野で交流することによって相互理解を深め、共生共栄への道が開かれるのであれば、民間外交に多大な貢献となり、東アジア地域の平和と安定に寄与するものと考えております。

会員の皆様の一層のご支援とご鞭撻をお願い致します。



王仁博士遺跡社



間もなく開通する木浦大橋



李勲東日本庭園



旧木浦日本領事館

東アジア政経アカデミーの目的

東アジア地域(韓国・中国・台湾)の研究機関、地方自治体、商工団体、社会福祉団体や一般市民団体等を対象として、共同研究、セミナーおよびフォーラムの開催、講演会及び公開講座の実施、産業構造の実態調査、各種研修団の受入や派遣等の事業を行い、各種レベルの交流と相互理解を通じ、東アジア地域の平和と安定並びに共生共栄に寄与することである。

研究・活動報告

木浦圏海洋観光発展に関する国際セミナー参加

東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

11月3日、木浦で木浦圏海洋観光発展に関する国際セミナーが（社）西南海岸フォーラムと（社）中央日韓協会主催、木浦市・東アジア政経アカデミー・駐韓日本大使館公報文化院の後援で開催された。筆者は討論者として参加し、指定討論において次のような内容の提案をした。

1. 務安国際空港の活性化方案として、務安空港を国際空港にし、近くの光州空港を国内空港専用にする役割分担を考えるべきである。務安空港の活性化には光州および麗水・順天・光陽地域の協力が必要である。そのための協議を始めるべきである。
2. 西南地域を「健美の郷」、すなわち、健康と美容をブランドとする観光地にし、その関連産業を興し、生産物のブランド化に努める。
3. 木浦港を基点とするヨットクルーズができるように重要拠点の島にヨットハーバーを構築し、宿泊施設を建設する。木浦周辺の多島海はヨット遊覧に適した恵まれた地域であるので、それを十分に活用すべきである。

木浦市訪問団板橋区訪問

10月25日午後、韓国全羅南道木浦市丁鍾得市長・裴鐘凡市議会議員など14名の訪問団が東京都板橋区を表敬訪問した。坂本健区長・石井勉区議会議員・安井賢光副区長・北川長教育長・橋本一裕区民文化部長など板橋区関係者の出迎えを受け、区庁舎会議室において懇談会が行われた。板橋区と木浦市の交流について話し合わせ、交流を推進することを合意した。

訪問団は翌26日、板橋区内の産業施設および福祉施設を視察した。午前中は板橋区生活産業融合型工場ビルと板橋清掃工場を見学した。特に、清掃工場では、ゴミ問題に悩んでいる行政の長として市長自ら様々な問題点について質問し、意見を求めていた。また、同行市議団も議論に参加し、工場側も資料を見ながら答える場面もあった。両自治体のゴミ問題の事情の相違はあるにしても大いに参考になったようであった。



セミナーの様子

4. 木浦周辺には日本縁故の文化施設、観光施設が散在し、美しい自然と豊かな海の幸に恵まれた地域である。また新鮮な海産物は格別な味である。それらの観光資源をもっと活用すべきである。

最後に、観光客誘致のためには木浦の良さを広く知らせることである。木浦を撮影地とするドラマまたは、映画の製作も一つの方法であろう。韓流ブームに乗っかるような映画を製作し、訪れた日本人女性に木浦の特産品であるアワビ料理をご馳走させる。木浦のアワビは最高の珍味である。木浦ではアワビ料理のフルコースが35,000ウォン約2,500円。新鮮なアワビの刺身、焼き物、おかゆなどのフルコースを食べて2,500円では魅力ある値段なのだ。これに女性のための海水エステが加われば言う事なし。観光客のニーズに合わせた対策を早急に講ずるべきであると考えます。



木浦市訪問団板橋区訪問記念写真

昼食は板橋区徳丸の名物そば屋「爽風庵 榎」で伝統的な日本食ざるそばを食べ、隣接の粕谷家住宅（板橋区指定文化財）を見学した後、板橋区立三園福祉園、特別養護老人ホーム「ケアタウン成増」、JHC板橋会クラブハウス「サンマリーナ」を見学した。



丁鍾得市長と坂本健板橋区長



裴鐘凡木浦市議会議員と石井勉板橋区議会議員



爽風庵榎（日本そば屋）で記念写真



丁鍾得市長と永野代表

木浦市東京訪問団歓迎会開催

10月25日午後7時から東京池袋のメトロポリタンホテルにおいて、丁鍾得市長および裴鍾凡市議会議長をはじめ4名の市議会議員からなる14名の木浦市訪問団を歓迎するレセプションが東アジア政経アカデミー主催で行われた。大杉由香理事（大東文化大学准教授）が司会を務め、梁京姫大阪市立大学大学院助教が通訳を担当した。木浦と縁のある90余名が参席し、和やかな雰囲気の中で交流会が行われた。

木浦市と交流を進めようとする板橋区から坂本健区長・安井賢光副区長・石井勉区議会区長・川口雅敏日韓議連会長・長瀬達也日韓議連副会長などトップの幹部が勢揃いした。また、金子照円板橋区社会福祉協議会長・岩崎道博同専務理事・寺谷隆子 JHC 板橋会長・松浦勉前板橋区福祉部長・坂本寛ケアタウン成増理事長など福祉関係者も多数出席した。

永野慎一郎代表の主催者挨拶から始まり、衛藤征士郎衆議院副議長、渡辺浩一郎衆議院議員、野沢太三元法務大臣、徐炯源駐日韓国大使館公使、坂本健板橋区長の来賓挨拶の後、丁鍾得木浦市長の答礼の挨拶があった。

石井勉板橋区議会議長と裴鍾凡木浦市議会議長の乾杯



歓迎会で挨拶する永野代表



‘木浦万歳’を先唱する衛藤征士郎副議長(中央)

音頭で乾杯し懇談に入った。木浦訪問団の紹介の後、永野代表が各テーブルを廻って、出席者、一人ひとりを紹介した。木浦周辺出身者の集まり在日全南道民会からも多数出席し、日韓交流の場となった。国会議員や地方議会議員など政治家、大学教授、地方公務員、団体役員、福祉関係者、企業経営者など多彩な人材が集まって木浦市との交流についての話題に花が咲いた。

丁鍾得木浦市長は用意してきた木浦産焼酎と日本のビールを混ぜた日韓合成酒で乾杯を提案し、雰囲気盛り上げた。衛藤征士郎副議長の先唱で、日本と木浦市との交流のための万歳三唱で締めくくった。

木浦市長一行をお迎えして

板橋区前福祉部長 松浦 勉

2011年10月25～26日、韓国木浦市訪問団一行が板橋区を訪れるにあたり、私は板橋区側との橋渡し・調整を永野代表のもとでお手伝いさせていただいた。

今回の訪問目的は、昨年の映画会を端緒とする板橋区との交流をさらに進める契機とすることであった。結果として、市区のトップと議会の代表が相まみえ、今後の交流発展に前向きな意見を交わし、人的交流を果たした点で一定の成果があったと感じている。

区役所での表敬訪問に続きホテルで行なわれた歓迎レセプションには、政界、官界、学界、産業界、福祉・教育関係者など幅広い参加者の出席で大変盛り上がった。中でも印象に残ったのは、丁鍾得木浦市長のウィットに富んだ力強いスピーチと衛藤征士郎衆議院副議長の日韓交流への熱い思いを込めたあいさつであった。

訪問二日目は、板橋区内産業・福祉施設の訪問視察である。「工場ビル」では中小企業の活力を、「清掃工場」では現場の先端技術を視察いただき、昼食は区内の名物蕎麦を区文化財の「粕谷家住宅」見学と合わせ味わってもらった。午後は、新設の障害者施設「区立三園福祉園」、坂本健区長ゆかりの特別養護老人ホーム「ケアタウン成増」、そして韓国とも縁の深い精神障害者クラブハウス「JHC サンマリーナ」をまわり、板橋の福祉をアピールする機会となった。なお、各施設では市長を先頭に熱心な質疑も交わされていた。

来たる3月には、福祉をテーマにしたシンポジウムを木浦市で開催する企画があり、区側からも訪問団を派遣すべく準備に入っているが、丁市長はじめ今回板橋区を訪問され交流を深めたメンバーとの再会が楽しみである。



JHC サンマリーナ
訪問記念写真

木浦と俳句

東アジア政経アカデミー副代表 貫 隆夫

韓国にも俳句の歴史があり、木浦は戦前「朝鮮の子規」と呼ばれた朝鮮俳壇第一世代の朴魯植（1897-1933）が俳誌「カリタゴ」を刊行した由緒ある土地である（参考文献：豊田康著『韓国の俳人 李桃丘子』2007年）。韓国独立後の反日感情が強い時代は日本生まれの短詩としての俳句は日陰の存在であったが、現在はソウルの俳句会の会員が現地駐在の日本人と韓国人がほぼ相半ばするなど、次第に活発になってきている。私自身も俳句を始めたのは1999年から2000年にかけて1年間のソウル滞在中に「ソウル俳句会」に入会してからである。

2011年9月21～24日の木浦訪問は木浦市のヨットに乗っての遊覧、レーザー光線で文字や絵柄が出る踊る海の噴水ショー、さらには天日塩をつくる塩田視察等、前回の訪問にはない要素が幾つもあった。そこで、以下の拙句をご笑覧に供したい。

海鳥は船縁近く天高し

塩田にそのまま続く秋の海

レーザーの噴水踊る星月夜



ヨットに乗船した貫先生

会員からの便り

「ソウル便り」ー今年は大変な年！

ソウル在住 佐々木 憲文

新年あけましておめでとうございます。今年が、より良い歳になることを祈念申し上げます。

さて今年の韓国は、選挙の年です。4月に国会議員選挙（総選）、12月には大統領選挙（大選）が行われます。大統領の任期が5年、国会議員は4年なので、20年に1度同じ年に選挙が行われます。

昨年のソウル市長選挙では、既存政党に対する不信が顕著にあらわれました。政党だけではなく、既存のマスコミや権威に対しても深刻な批判が噴出しています。それらに真剣に向き合うことが求められますが、これまでの政治の動きにはあまり期待できそうにありません。さらに昨年末に北朝鮮の金正日総書記が死亡し、大きな波乱要因が生まれました。

日本でも安定しない政権基盤の下で、東日本大震災復興や福島原発処理などの緊急課題のほか、消費税増税、社会保障改革や雇用創出課題、TPP交渉や沖縄米軍基地の問題なども待ったなしの状態です。アメリカも大統領選挙です。自らの政治基盤を守るために相手の立場を思いやるのが難しく、相互に強硬に自らの主張を繰り返す不毛の政治の年になりかねないか、と不安を感じています。

李明博政権末期の今年、求心力が弱まり、大統領周辺での不正・腐敗問題など様々な問題が噴出しそうです。互いの政権基盤の脆弱性のゆえに、激しい強硬論になる可能性も否定できません。政治や行政に多くを期待できない年になりそうです。こんな時こそ、東アジア政経アカデミーのような民間交流を密にし、政治や行政の本来の仕事を補完していく必要があります。考えてみれば、今年は大変な年ではなく、今年も大変な年なのです。政治や行政に大きな期待をできないからこそ、私たちアカデミーがより力をつけていく必要がある、と実感するこの頃です。本年もよろしくお願いいたします。（本アカデミー監事）

木浦訪問団募集！

- 主催： 東アジア政経アカデミー
 期間： 3月25～28日（3泊4日）
 費用： 約9万円（参加費、航空運賃、国内移動費、宿泊・食事代等含む）
- 参加人数： 30名（先着順）
 参加行事： 日韓福祉国際セミナー
 視察： 1. 木浦共生園等福祉施設
 2. 旧木浦日本領事館、近代歴史館等日本関連歴史・文化施設
 3. 産業施設・文化施設
 4. 木浦市庁訪問、市民団体との交流
- 締切日： 1月30日（月）15:00
 申込方法： faxまたはe-mail（申込用紙はホームページにあります）
 問合せ先： NPO法人 東アジア政経アカデミー
 Tel & fax 03-5944-1779
 永野携帯 090-9800-2891
 e-mail: eaapea@diary.ocn.ne.jp

一つの時代の終焉

中央日韓協会理事 薄葉 威士

夕刻羽田を離陸して十数分で雲の上に躍り出る。西方にはまだ夕日の残照が残っている。西に向かって飛ぶため、なかなか日が沈まない。まだ明るい西の雲海のかなた、あそこまで行けば何かいいことがあるそうな……。韓国へ行くときはいつもそんな気がする。

そんな韓国へ出かけた昨年12月のある日、旧朝鮮王朝の「朝鮮王朝儀軌」等が100年ぶりに韓国側に返還された（日本側の表現は引き渡し）とのテレビニュースをソウルのホテルで見る。日本の朝鮮統治時代の残滓はまだここかしこに残っている。その朝鮮王朝最後の皇太子英親王の次男李玟が東京の赤坂プリンスホテルで亡くなったのは6年半前の平成17年夏。

その赤坂プリンスホテル新館は、高いビルが立ち並ぶ赤坂見附付近でもひととき目立つ建物だ。ホテルの開業は昭和30年。昨今の経済情勢の波に洗われ、平成23年3月に営業を終了。その後東日本大震災の避難宿泊所として一時使われたが、今は建物の解体を待つばかりだ。

その横に瀟洒なつくりの旧館がひっそりと建っている。李玟の終焉の地でもある。戦前は日本、そして戦後は米国人女性と結婚し米国に居住していたが、離婚後韓国と日本を行き来して、最後は看取る人もなく異郷の地東京で亡くなる。しかし、この赤坂プリンスホテル旧館は、くしくも李玟が昭和6年末に生まれ、そして育った地で故郷の地でもある。この旧館は、取り壊しは免れ、改修の後保存されることになっている。

李玟は英親王と日本の皇族であった方子の次男として生まれたが、お定まりのように日朝の間で時代に翻弄され、朝鮮にも米国にも日本にも安住の地はなく数奇な人生を送る。李玟が生まれ亡くなった旧館は残るが、義親王、英親王、徳惠翁主等々李王朝の末裔が次々に亡くなっていく。そして「朝鮮王朝儀軌」が元の所に戻る。一つの時代が着実に終わっていく。

■編集後記

前回号をお送りしてから半年以上過ぎました。その間に日本では政権交替、朝鮮半島では金正日の死というように、どちらでも政情不安が強まりました。しかしこうした中でも本アカデミーは板橋と木浦との交流をはじめ、前向きに国際交流を進めております。これは永野代表の精力的な活動もさることながら、アカデミーを支えて下さる皆様方の御蔭と感謝致しております。そして今回もご多用中、貴重な御玉稿をお寄せ頂いた先生方に厚くお礼申し上げます（大杉由香）。